

ただ一言  
「勝ちに利なし。負けにも利なし。戦いは即刻放棄せよ」

・子どものころからの喧嘩のおきて

1. 喧嘩両成敗
  2. 先に手を出した方が負け
  3. 石を持った方が負け
  4. 赤子の手をひねる卑怯者
- ・大人になってからも同様のおきてはあると思います。どうでしょうか、ロシアとウクライナのありようを見てみると、子どものころから身につけた喧嘩のおきてが瓦解しそうです。

2022/4/25

1. 今回の喧嘩には、本来は裁判所、国連や国際司法裁判所にその役目がありました。でも現実、それらには権限と威厳と抑止力がありません。おそらく権限、威厳、抑止力を持つ側と裁こうとしている相手との戦争になりそうな、まさに無政府状態、火に油の様相であると言えます。喧嘩は当事者双方の責任です。
2. 今回の戦争はそれぞれに言い分があります。どちらも、そもそも相手が悪いと訴えています。おそらく神代の昔からの憎しみ誤解をいまだにひきずっているのでしょう。そして今、新しい憎しみと誤解を増幅し反復していくのです。なれの果ては最後の一兵卒が残るまで戦いは続きます。最後の一兵卒は、残された戦場を前にして、彼が守るものは守ろうとしているものも同時に消滅しているのです。彼は独り、さみしさと空しさという悲しみを知るので。

2022/4/25

5. 戦争には当然因果関係がある。ロシア・ウクライナ間での紛争はソ連邦崩壊後30年にわたって継続していた。特に2014年マイダン革命（クーデター）以後、ウクライナ東部は内戦状態にあった。しかし、侵攻前に如何に経緯・伏線があったからといって侵略は正当化できない。
7. 一方、ゼレンスキー政権も全くの被害者として登場しているのではなく、戦争当事者として役割（因果関係）を果たしており、ゼレンスキー政権が一方的な被害者であり、正義があると正当化はできない。  
東西冷戦体制の終焉後もソ連邦崩壊後のロシアを敵国と位置づけ国際的首脳会議(G8)から排除し、NATO vsロシアの対立構造を続けてきたことに対して欧米勢力の責任も等分に存在する。「民主主義国家」vs「独裁国家」という単純な構図のストーリー化には違和感がある。  
またミンスク合意を反故にしウクライナ東部地域への武力介入を続けてきたゼレンスキー政権にも責任がある。NATOもゼレンスキー政権も勿論プーチン政権も戦争を回避することはできたはずだ。

- ・コロナ感染が起きた中国の感染対策でロックダウンがあり、周知の言葉かけに静黙という漢字が当てられました。静かに黙る、です。
- ・借り物の言葉ながら、われらの行動もそれに倣えばよろしい。NO WARと掲げ、ただ立ちすくむのみ。静かに黙して意思を示す行動、デモをするでもなし、演説をするでもなし。だれかに説得するのでもない。私の気持ちがNO WARと示されればそれでよい。そしてそれが戦いは即刻放棄せよ、の意思につながればよろしい。行動を見ているのが雨と風だけだとしてもそれが私の人生の意思だ。私たちの行動が目に見える形に成果を出さずとも、スタンディング行動を続けたいと決意する。
- ・歌うことをためらう生徒に、音楽教師が、<聴いているのが森と虫たちだけだったとしても。それがあなたの人生。歌うことをやめないで>と励ます言葉をかける部分、我々のスタンディングの行動にも言えるのではありませんか。<>部分は（NHK、ちむどんどのセリフより引用）

2022/4/25